

第34回高知糖尿病チーム医療研修会のご案内

謹啓、時下、皆様方におかれましては、益々ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。

第34回高知糖尿病チーム医療研修会をご案内致します。

今回の教育講演は、財団法人 倉敷成人病センター内科 部長 金田 伊史 先生から「インスリン治療の医療から介護への橋渡し～インスリンがうてなくなったその日から～」、また、町田病院 副院長 橋田 正継 先生から「糖尿病でロービジョンにならないために」と題してご講演いただきます。

シンポジウムでは、県内各施設で糖尿病療養指導にご活躍の先生方の口述発表と総合討論を予定しております。糖尿病治療、指導に興味をお持ちの医師、歯科医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、管理栄養士、栄養士、保健師、理学療法士、歯科衛生士等多数のご参加をお待ちしております。

尚、本研修会は、日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修会として＜第2群＞(糖尿病療養指導研修単位)1単位を申請中です。

謹 白

第34回高知糖尿病チーム医療研修会

幹事 高知大学医学部附属病院 濱田 三紀

記

日 時：平成27年11月8日（日） 13:00～17:00

場 所：総合あんしんセンター 3階 「大会議室」

対 象：医師、歯科医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、管理栄養士、
栄養士、保健師、理学療法士、歯科衛生士、その他医療スタッフ

【講師プロフィール及び講演要旨】



「インスリン治療の医療から介護への橋渡し
～インスリンがうてなくなったその日から～」

金田 伊史 先生(財団法人 倉敷成人病センター内科 部長)

高齢者糖尿病には脳卒中、骨折、重症感染症などの急性イベントを合併しやすく、急性期治療ではインスリン頻回注射(MDI)が必要になることが少なくない。リハビリテーションや血糖管理による耐糖能の改善で、注射回数の軽減・離脱に至る症例がある一方、廃用状態からADLの改善を認めない症例やインスリン分泌が低下した症例では、MDIの継続が必要となる症例も多く、在宅療養や介護施設入所に影響を与える事案も存在する。経口摂取やインスリン自己注射が困難になった糖尿病患者を、急性期医療機関から直接在宅・介護現場へ移行することは極めて困難である。本講演では、こうした在宅・介護現場が抱える問題に対する現状・ケアミックスでの取り組みを、自験例をもとに提示し、インスリン治療を在宅・介護現場へ円滑に移行するためのチーム医療の在り方について議論したい。



「糖尿病でロービジョンにならないために」

橋田 正継 先生(町田病院 副院長)

日常生活に必要な情報の大半は視覚から得ているといわれるが、これが中途に失われる状態(ロービジョン)に至ると著しい支障が発生する。糖尿病の眼合併症の中でも網膜症がよく知られているが、その病態は高血糖状態に長期罹病したことによってもたらされる。増殖期に至ると不可逆性変化を来すことが多く、レーザー治療や手術療法などといった積極的な治療が必要となる。かつて薬物療法は眼科診療において有効性が乏しかったが、近年は抗VEGF薬の登場によって劇的な効果が得られるようになった。網膜症以外の糖尿病眼合併症である角膜障害、緑内障、白内障、屈折異常、神経障害などもQOV(Quority of Vision)に直結する問題で、病態や治療法を理解する必要がある。運動療法や食事管理、インスリン注射や服薬管理を適切に行うためにも見えることが重要なので、ロービジョンにならないような取り組みを紹介する。

【プログラム】

12:00～ 受付

13:00～ 13:05 開会挨拶

第34回研修会幹事 濱田 三紀 先生(高知大学医学部附属病院)

13:05～ 14:00 教育講演1 司 会 末廣 正 先生(高知高須病院)

「インスリン治療の医療から介護への橋渡し
～インスリンがうてなくなったその日から～」

演 者 金田 伊史 先生(財団法人 倉敷成人病センター内科 部長)

14:00～ 15:00 シンポジウム「糖尿病療養指導の現状と実際」

司 会 久川 奈緒子 先生(高知記念病院 医師)

伊與木 美保 先生(高知大学附属病院 管理栄養士)

① 武田 真苗 先生(海辺の杜ホスピタル 薬剤師)

「単科精神科病院での糖尿病 ～糖尿病治療への関わり～」

② 田内 明彦 先生(高知県歯科医師会)

「糖尿病と歯周病からひも解く医科・歯科連携」

③ 有澤 ゆかり 先生(高知県立あき総合病院 管理栄養士)

「高知県東部地域における栄養士ネットワークを活かした
糖尿病重症化予防への取り組み」

④ 野波 理佳 先生(岡村病院 看護師)

「糖尿病患者における下肢切断回避への取り組み」

⑤ 高橋 みなみ 先生(高知大学医学部附属病院 理学療法士)

「当院における糖尿病教育入院患者に対するリハビリテーション」

15:00～ 15:05 休憩

15:05～ 15:30 ポスターセッション(上記シンポジウムをポスターにて質疑応答)

15:30～ 16:00 総合討論

16:00～ 16:55 教育講演2 司 会 濱田 三紀 先生(高知大学医学部附属病院)

「糖尿病でロービジョンにならないために」

演 者 橋田 正継 先生(町田病院 副院長)

16:55～ 17:00 閉会挨拶

第34回研修会幹事 濱田 三紀 先生(高知大学医学部附属病院)

参加申込書

高知糖尿病チーム医療研修会 事務局

〒781-5103 高知市大津乙2705-1

高知高須病院 栄養部

TEL 088-878-3377

FAX 088-878-3322

Email:dm-takasu@takasuhp.or.jp

※ この用紙に同一施設・複数名で、ご記名願います。

歯科医師会会員の先生方へ

ご出席の際には、日歯生涯研修事業ICカードを必ずご持参ください。

ICカードを忘れると、研修会の研修単位登録は自己申告で行うこととなります。

ご施設名： _____

ご施設名住所： 〒 _____

電話番号：() _____ - _____

- | | | | |
|------------|-------|-----|-------|
| 1. 申込み代表者名 | _____ | ご職種 | _____ |
| 2. ご芳名 | _____ | ご職種 | _____ |
| 3. ご芳名 | _____ | ご職種 | _____ |
| 4. ご芳名 | _____ | ご職種 | _____ |
| 5. ご芳名 | _____ | ご職種 | _____ |
| 6. ご芳名 | _____ | ご職種 | _____ |
| 7. ご芳名 | _____ | ご職種 | _____ |
| 8. ご芳名 | _____ | ご職種 | _____ |
| 9. ご芳名 | _____ | ご職種 | _____ |
| 10. ご芳名 | _____ | ご職種 | _____ |

講師の先生にお聞きしたい点、ご質問がありましたら事前にご記入ください。

足りない場合、用紙をコピーしてご記入の上、FAX してください。

【その他の連絡事項】

1. 参加費 お一人様 1,000円を受付にて申し受けます。
2. 参加申し込み方法 住所・氏名・施設名・職種・電話番号を記入の上、FAX又はE-mailにて申し込み願います。
3. 参加申込先 〒781-5103 高知市大津乙2705-1 高知高須病院 栄養部

Fax 088-878-3322

TEL 088-878-3377

Email:dm-takasu@takasuhp.or.jp

4. 申込締切日 平成27年10月23日(金)
5. 当セミナーは、下記の研修認定単位を取得することができます。
 - ・日本医師会生涯教育講座(3.5単位)
 - ・日本薬剤師研修センター 認定単位(2単位)
 - ・日本病院薬剤師会生涯研修制度(2単位)
 - ・日本臨床衛生検査技師会履修点数(基礎-20点)
 - ・日本栄養士会 生涯教育(1単位)
 - ・日本歯科医師会 生涯研修制度単位認定(4単位)
 - ・日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修<第2群> 1単位
 - ・日本糖尿病協会登録医・療養指導医制度のための講習会
 - ・日本糖尿病協会 歯科医師登録医のための講習会
 - ・高知県糖尿病療養指導士単位認定(4単位)

6. 会場案内図



※駐車場に限りがございます。当日は、可能な限り公共交通機関をご利用ください。
また、お車でのご越しの際は周辺の有料駐車場をご利用ください。

共催：高知糖尿病チーム医療研修会
高知県糖尿病対策推進会議
高知県医師会
高知県糖尿病療養指導士会
バイエル薬品株式会社

第一三株式会社
公益社団法人高知県栄養士会
公益社団法人高知県薬剤師会
高知県病院薬剤師会

後援：公益社団法人高知県看護協会
(社)高知県臨床検査技師会
公益社団法人高知県理学療法士協会
高知県歯科医師会